

邦楽専攻生クラス・ソルフェージュ授業奮闘記

山岸 妃貞子

1. はじめに

藝高に邦楽専攻生が初めて入学したのは、平成10年度である。当時私は、藝大箏曲山田流の故増渕任一郎先生の下で助手として勤務しており、受験生を迎えるにあたっての準備など、藝大・藝高ともに大変苦勞したことを覚えている。初年度は、山田流1名と生田流1名の計2名でスタートした。当初は、日本音楽史の授業など初めて導入された科目については、授業見学をしたり授業担当の上参郷祐康先生のお手伝いをしたりしていたが、2年目以降は、山田流の生徒が数年入学しなかったこともあり、殆ど藝高を訪れることもなかった。しかし、一昨年より、山田流の生徒の実技を担当させていただいたので、再び藝高生と触れ合ったり、教室を訪れたりする機会も多くなってきたこともあり、邦楽専攻のソルフェージュ授業に大いに関心を抱いていた。ちょうどその折、ソルフェージュ科の邦楽クラスを担当させていただく機会を得、昨年度より授業をさせていただいている。1年目の昨年度は、本当に試行錯誤どころか、訳が分からず過ぎてしまったのだが、1年間の反省を踏まえて、今年度は、私なりに目標を持って臨んできた。その奮闘記とも言うべき授業風景を述べさせていただくつもりである。内容は、「ソルフェージュ」と呼べるものではないかもしれないが、そこはご理解頂き、先生方の忌憚のないご意見を賜り、今後を活かしていきたいと考えている。

2. 邦楽における洋楽ソルフェージュの必要性

かねてより、邦楽専攻生が実技に活かすためのソルフェージュ教育を模索していきたいと考えていた。自身の経験からすると、大学でのソルフェージュの授業、副科ピアノ、副科声楽は大変勉強になった。また、教職課程の学習並びに教育実習も、現在の自身の活動に大いに役立っている。また、五線譜を初見で演奏しなくてはならない機会は大変多く、「譜読みが出来ない」では済まされない昨今である。したがって、その必要性を生徒達にはよく理解してもらい、楽しく体得してもらいたいと思っている。また、邦楽では、絶対音感はなくとも、「移動ド」で相対音程を捉えることができれば十分通用するとも感じている。

3. 邦楽専攻生ソルフェージュクラスの問題点と目標

前述のように、目標と希望を持ってスタートしたのであるが、今年度1年生が7名（箏曲6・尺八1）入学し、2年生6名と3年生3名、合わせて16名のクラスとなった。とても活気のあるクラスであり、学年を超えて邦楽専攻生だけが集う良い機会となっていてとても楽しい。しかし如何せん、レベルの差が余りにも大きく、全員が充実感のある授業とするためにはどのような教材を使って、どのように進めていけばよいのか、ということが毎回の大きな悩みとなった。しかし、進めていくうちに、とにかく「一人ひとりの実力アップ」を狙うことを考えて指導していこう、という気持ちを忘れないことが何より大切であることが理解できてきた。そのために、一人ひとりの力をしっかりと把握して、時にはグループ別、時には個別、といったことを心がけて指導してきた。授業では、毎回ではないが、「全体で行う時間」と「グループで行う時間」とに分けた。グループは、学年でなくレベルで大きく3グループに分けた。また、「楽しい」と感じてもらうために、毎回最後に必ず「歌」を歌うことにしている。そして、「音符を見ると吐き気がする」という生徒のために、「読む」だけではなく「書く」時間も取り入れ、聴音や楽典の基礎学習も入れている。その都度、明確に結果が現れているわけではないのだが、実践報告の形で数回の授業内容について述べてみたい。

4. 実際の授業実践

<平成29年度 第1回 平成29年4月14日(金)>

今年度初めての授業である。1年生はクラス分けの試験のため、この日は昨年度から持ち上がった2年生6名、3年生3名での授業となった。2年生のうち2名は、昨年度洋楽クラスにいた生徒であり、今年度より邦楽クラスとなった。そのため、他の2年生との差が大きく、どのように配慮しながら授業を進めたらよいか、考えあぐねていた。しかし「案ずるより産むが易し」で、当人たちは、すんなりと邦楽クラスに慣れてくれた。この日の授業のねらいは、その2名に対してのモチベーションの上げ方が一番のポイントと考えて臨んだ。他の生徒に関しては、昨年度の様子と試験結果でほぼ実力を把握しているので、今年度はその2名と3年生をリーダーとして頑張っていこうと気合をいれたつもりである。

また、次週より1年生が7名合流することになるので、さらにレベルの差が開き、授業進度を同じくすることは不可能に近いと思い、次回の授業時に、一人ずつ簡単なテスト(譜読み・リズムの初見)をすることを伝えた。そして学年別ではなく、レベル別での編成をして授業を進めることを説明した。

その後、楽典の基礎問題(音程・音符やリズム譜の穴埋め問題)を学習させた。2年生の中では、まだト音記号をきちんと書けない、ヘ音記号は全く読めない、音符・休符の足し算引き算ができない、という生徒も多く、「まずはここから」と気持ちを新たにした次第である。

<平成29年度 第2回 平成29年4月21日(金)>

この日より、1年生7名(箏曲6名・尺八1名)が合流した。これまでの教室では入りきれないため、アンサンブル室IIをお借りし、広い教室でじっくり授業ができることを大変ありがたく思う。

まず「邦楽専攻生としての洋楽ソルフェージュの必要性と心構え」について次のように述べた。

1. 自身の大学1年時のソルフェージュ授業の体験について。
2. 卒業までに、 $\sharp b$ 2個の調号までは、すらすらと読める、歌えるようにしたいこと。まずはト音記号、そしてヘ音記号、アルト記号までは読めるようにしたいこと。
3. 自分の専攻に活かす「音楽性」を身につけるためには、ソルフェージュの基礎を学ぶことが大切であること。
4. ソルフェージュに対しての苦手意識を持たず、楽しく学習していくこと。
5. できるだけ五線譜に触れる機会を多く持つために、いろいろな教材を用意していくので、きちんと自分なりのノート・ファイルを作り、整理すること。前期試験前と後期試験前に提出し、その様子をチェックさせてもらうこと。
6. 宿題をこなすことは最低限であり、できなかつたところは、各自で判断をして、復習をすること。

その後、1年生のみ1名ずつ、質問等をしてしながら、クラス分け試験時の問題を試して、レベルを確認した。

[用意した教材] (いずれも幼児用ソルフェージュ教材できわめて簡単なもの)

- ・視唱
- ・クレ読み
- ・リズム
- ・合唱曲《花》

[形式]

- ・前半 全員でピアノに合わせて視唱・リズム等
- ・後半 3グループ(A:3年3名・2年2名・1年1名 B:2年4名・1年4名 C:1年2名)に分け、学習した。同じ課題を渡し、できるグループはどんどん進めていき、テンポを上げていくことにして取り組んだ。

[感想と課題]

- ・Cグループの2名は、殆ど五線譜に触れたことがないようで、ト音記号のハ長調ドからドまでの1オクターブを読むこともできない。まずはそこからだ。
- ・Bグループの2年生4名と1年生3名は、ほぼ同レベルだが、2年生としてのプライドもあり、また、経験値が違うので、同教材を用いつつも1年生4名と2年生4名を分けるようにしたい。
- ・Aグループは、洋楽クラスから来た2名がやはり特によくできるが、リーダーをその都度替えながら、3年生3名と一緒に難度の高い課題に挑戦していくようにしたい。1年生1名が、このグループに参加したいと申し出たため、課題によっては、そうしたケースもあってよい、と思った。
- ・レベルが違うことにこだわり過ぎず、いろいろな課題に挑戦していきたい。
- ・最後の合唱は、なかなかきれいに揃った。年間を通して続けていこう、と改めて思った。

<平成29年度 第5回 平成29年5月19日(金)>

連休を終えて、1年生も少し慣れてきたところなので、1ヶ月を振り返って、一人ずつ感想を述べてもらったところ、1年生は、「難しい」と「ついていくのが大変」という言葉が殆どだった。2年生は「去年より少しは慣れてきた」「楽しい」、3年生は「少し焦りを感じている」ということだった。全体を見ても、まだ確実な成長の手ごたえは感じられず、何となく慌ただしく進めてきたように思い、もう一度一つずつ課題をきわめていくことが大切だと実感した。この日は、具体的に苦手な部分を把握するように努めた。

[形式]

- ・前半 全員で聴音、視唱、リズム
- ・後半 グループ別にリズム

[用意した教材]

- ・視唱 『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』(音楽之友社)
- ・聴音課題 ハ長調 ト音記号 4小節 4分の2、4分の3、4分の4拍子
- ・リズム課題 左手で拍を打ちながら右手でリズム打ち

[感想と課題]

- ・前回より簡単な聴音を取り入れた。これにより、ト音記号の書きかた、音符・休符の書き方等の基本も学習できた。まずは、きちんと拍の頭を打ちながらピアノを弾くようにこころがけ、拍子をつかむことを学習した。できる生徒は、記憶聴音としたり、数回で完成させたりするなどの課題を与えた。次回からは、解答を用意して、時間を区切り、できないところは書き込んでもらう方式を取る。そうでなければ、できる生徒を待たせる時間が増えてしまう。
- ・視唱では、当然のことながら、半音階が苦手な生徒が多い。また、完全4度・完全5度(特にレ→ラ)も取りにくいようだ。また、2分の2拍子にも慣れていない。基本をやりながら慣れていく必要性を痛感した。
- ・リズムは、特に3年生がよくできていた。学習を積んできた成果であろう。基本的なリズム感は決して悪くない邦楽専攻生である。五線譜に慣れていないだけである。きちんと拍子をとって、確実に数えられるように練習させていきたい。
- ・復習のみならず、次回の課題を先に与えての予習を促し、今回は再び、一人ずつ簡単なテストをする旨を話した。「えー」という声が響いたが、果たして効果はあるだろうか。

<平成29年度 第6回 平成29年5月26日(金)>

この日は、まず全員で先週の『ダンノーゼル』の復習から始めた。「テストをする」という気持ちからか、少々気合いの入り方が違うようであった。

[用意した教材]

- ・視唱 『ダンノーゼルのソルフェージュ』
- ・聴音 ハ長調の複音程（I、IV、Vの和音程度）
- ・楽典の基礎課題（テスト中の自習課題 自己採点用の解答用意）
- ・リズム読み
- ・ヘ音記号の読譜
- ・重唱曲《少年時代》

[形式]

- ・全員
- ・自習中、一人ずつ視唱・譜読みテスト

[感想と課題]

- ・テスト結果としては、これまでと変わらずの成績だが、予習してきたかどうかは明快にわかった。その旨をそれぞれに伝え、それぞれの課題を話し、今後につなげていくように促した。
- ・Aグループは、ト音記号、ヘ音記号はもちろん、アルト記号の譜読みをもっと入れていく。アルト記号は機械的に「ト音記号の1つ上」とせずに読んでいくことを確認した。リズム読みはかなりできる生徒もいるが、やはり「音程」がつくと今一步なので、音程付きのリズム課題を増やしていく。また、クレの読譜は、頭の中が整理できていないと間違えてしまうため、睡眠不足や体調不良の生徒は、結構ミスが多く、驚いた。コツコツと学習を積んでいくしかない。また、一人ひとりに「このクラスで物足りないかどうか」聞いてみたが、現状で不満はない、とのことで、少しほっとした。このグループのメンバーには、常にリーダーとして引っぱって行ってほしいので、合唱の際の伴奏や指揮をお願いしたりしている。今後も続けていきたい。
- ・Bグループ2年生チームは、毎回とても楽しく参加しており、その都度リーダーを決めて交代しながら進めているが、一人ひとりのテストの結果は厳しいものであった。予習の有無もあろうが、このグループのレベルを上げなければならない、と切に思った次第である。個々には「ヘ音記号の読みが得意」「リズムはまあまあ」「聴音は良い」といった良いところを発掘できた点もあるが、総合的にみても1年間の成果が見えにくい。もっと学習意欲をかきたてていかななくてはならない。
- ・Bグループ1年生は、もともとかなりできる生徒もおり、一人ひとりの力は十分にある、と感じた。こちらも毎回リーダーを決めてやっているが、まだ中学生気分が抜けない生徒も多く、グループになると、なかなか課題がはかどらないようだ。そこをよく見ながらグループ課題を与えていくようにしたい。このグループは、伸びしろが多く楽しみである。
- ・Cグループは、僅かずつではあるが、基本ができてきたようだ。毎回基本的な課題をじっくりと二人で向かい合って取り組み、二人ともクリアできたら次にいくようにしている。ト音記号の加線1本くらいまでは、だいぶ読めるようになってきた。最初、1音ずつ仮名をふっていた生徒には、仮名振りをしないように注意したが、聴音になるとまず「ドレミ……」と書き始める。だが、それはそれで現段階ではよし、としている。早く音と音符が繋がるようにしたい。予習はしっかりとしてきたので、冒頭の部分は良く歌えていた。練習あるのみである。
- ・今日も最後に《少年時代》を歌い、すぐにハーモニーができる生徒にはコーラス部分を歌うように言ったが、知らない曲でト長調となるとなかなかハーモニーが出来ないようだった。邦楽においては、この「ハーモニー」の力は大いに役立つと考える。箏でも三絃でも尺八でも、古典曲でハーモニーになっている部分は多くある。同じ楽器で二重奏する場合は、そうした力のあるなしで随分違ってくるものだ。改めて、ソルフェージュ学習の必要性を強調したい。

<平成29年度 第7回 平成29年6月2日（金）>

先週、今週と続けて2拍子、3拍子、4拍子の取り方、指揮のしかた、リズムの取り方などを体を動かしながら練習した。何気なくやっていることも人によって違うことやタクト自体を全く体で表現しない生徒もおり、他

人の動きは、とても参考になったと思う。リズム感はあるとはいえ、音楽表現には、動きが伴うことが自然であることなどを話し合った。普段の授業では、全員が円形状に座って行っているのですが、おおむね決まった生徒がリズムをとってくれている。それに皆が合わせているようだった。その感覚を一人ひとりが持つようにしたい。音程も然りで、全員で歌っている時は、リーダー的な存在の生徒が大きな声で歌ってくれているので一緒に歌えるのだが、一人になるとなかなかできない。しかし、それは少しずつ身につけていくものだ。したがって、全員で学習することの成果はじわじわと出てくる、と信じている。

[教材]

- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』
- ・『標準版 リズムの練習』(木村和子著、kmp 出版)
- ・『コールユーブンゲン』(音楽之友社)
- ・『コンコーネ 11番』(全音楽譜出版)

[形式]

- ・全員
- ・グレード別

[感想と課題、反省]

- ・ダンノーゼルを使いながら、一人2小節ずつ、どんどんバトンタッチして歌っていく練習をした。最初はなかなか声が出なかった生徒も次第に大きく出るようになり、皆の前での恥かしさもなくなってきているようだ。これは単に音楽の学習のみならず、集中力、注意力等を養うにも恰好の学習だ。止まってしまう生徒が多いのではないかと推測していたが、意外にすらすらと歌うことができた。もちろん課題としては易しいのだが、全員で声を合わせての学習成果とも言える。今後も続けていきたい。
- ・コールユーブンゲンでは、最初の基本的なリズムの分け方の説明部分を改めて学習し、リズムの切れ目や強拍弱拍を意識することを学習した。ブレスのところで息継ぎが出来ない生徒が多く、楽譜全体が目に入っていないことに改めて気付いた。基本を忘れずにいきたい。

<平成29年度 第8回 平成29年6月9日(金)>

かねてより宣言をしてきたのだが、これまでの学習で使用した教材・ノートなどをまとめて夏休み前に提出するように話した。回収率は、16名中12名で、欠席2名であった。まとめていない、忘れた、という生徒は、次週提出とした。

また、1年生については、これまでの学習成果を確認するために、グレード別による楽典を学習中に、一人ずつ、リズム・視唱のテストを行った。今回は、大いに成果が出ている、と感じた。特にリズムの譜読みが早く、正確になったようだ。また、Cグループの2名は、ハ長調4小節程度をなんとか読めるようになった。Aグループに入っている1名の生徒は、ピアノも弾け、かなり良くできるのだが、欠席が多く、授業中の気持ちの変動が激しく安定しない。したがって当初の力が伸びているとは思えないのは残念だ。なんとかモチベーションを上げていきたいところだ。

終了後、これまでの8回のレッスンを振り返り、自分で成長したこと、後退したこと、苦手なこと、得意なこと等、具体的に感想を書き、提出用ファイルに添付するように指示した。それをもとに、一人ずつ「夏休みの課題」を作る予定である。

[教材]

- ・聴音 a moll 4分の2、4分の3、4分の4拍子 各8小節 臨時記号あり
- ・リズム及び視唱 『子供のためのソルフェージュ 2』(子どものための音楽教室編、音楽之友社)
- ・『リズムの練習』(kmp 出版) より 2声のリズム 3拍子、4拍子 (3連音、4連音、5連音含む)
- ・歌《ロンドンテリーの歌》

[形式]

- ・全員→グレード別→全員

[反省と感想]

- ・聴音はだいぶ慣れてきたようだが、8小節となると、あんぐり口を空けている生徒も多く、「とりあえず聴けたところから書く」ことや、個々に回ってヒントを与えていくようにしている。拍子をとることはできるようになっているので、小節の頭の音をしっかりと聴くように指導しているが、なかなか得意な人と不得意な人の差が縮まらない。Cグループの2名には、先に解答を渡して、そのように聴こえるかどうかを試しつつ、最後に「写す」形で練習している。本当は段階を追って練習していくべきなのだろうが、そこはレベル差があり過ぎることによる永遠の悩みである。
- ・視唱を繰り返す中で、この日は、オクターブが案外取りにくいことを感じた。基本的に2度、3度……という上下の練習がもっと大切である、と感じた。音符と音がしっかりと結びつくように、あるいは、鍵盤が思い浮かぶように意識して練習していこう。

<平成29年度 第10回 平成29年6月30日(金)>

夏休み前の最後の授業である。前回および前々回に提出してもらったファイルの返却とホームワークの配布を行った。未提出2名のみである。ファイルには、それぞれ感想を添付してもらったが、それぞれにできないところをよく把握しており、そこを克服したい旨が書かれていた。生徒たちの感想をまとめてみると、以下のようになる。

[3年生]

- ・自分の成長はよくわからないが、リズムは良くなった。
- ・新曲を視唱する時、音程が安定せず、休符で飛び出すことが多い。
- ・読譜は、すらすらできる時と遅い時があるので、地道に練習していきたい。
- ・一人で読譜していると自分のペースになってしまうので、周りのスピードについていけるようにしたい。

[2年生]

- ・私は、8分の6拍子は得意だが、4分の2、3、4拍子が苦手なようだ。
- ・ソルフェージュの授業の中で楽典や聴音が出来たことは良かった。
- ・リズムそのものはスキルアップしたように思うが、リテッソ・テンポのある課題は苦手なので、そこを練習したい。
- ・簡単なメロディーや音程の幅が狭い場合は初見視唱しやすいが、#♭が多くなったり、短調になったり、音程が広くなったりすると音がわからなくなってしまうので、後期はそこをがんばりたい。
- ・1年の時より成長していると思う。2年生になって、後輩ができたので、刺激となり、自覚が高まった。
- ・アンサンブルの授業で五線譜の曲だったので、ソルフェージュを頑張ろうと思った。
- ・1年時より集中して取り組めた。後期に向けて、試験をがんばりたい。
- ・ソルフェージュの授業は楽しい。

[1年生]

- ・邦楽は、全て漢字の楽譜なので、五線譜にまだ慣れていないことを痛感した。特にへ音記号が読めない。
- ・まだ五線譜を見ると吐き気がするが、前よりは少し良くなった。
- ・授業では、先輩たちに続こうと頑張るのだが、家で一人になるとスピードが遅くなってしまっているので、ペースを上げたい。
- ・これまで、「楽譜を見ながら何かする」ということが苦手だったが、少しずつ成長できているように思う。
- ・半音が苦手なので、意識して練習しているが、どうもびったりとはまらない。

このように、細かく書いてくれた生徒が多く、感激した。

それらをもとに一人ずつに「夏休みの課題」を渡した。内容はグレード別だが、前期試験も意識しつつ、読譜・視唱・リズム・新曲視唱・楽典の基礎等の課題である。また、夏休みは時間が十分にあるので、個々に目標を掲げて、「できるだけ五線譜に触れる機会を多くもつ」ように一言ずつコメントし、提出日を守り、感想文を付けて出すように話した。夏休み中に皆が宿題をやってくれますように、と祈りつつ。

昨年の反省と同様に、ただただ慌ただしく前期が過ぎてしまったように思うが、試験でそれぞれが実力を出してくれるように祈りたい。

<平成29年度 第11回 平成29年9月8日(金)>

夏休み明け初めての授業、かつ前期試験前の最後の授業である。生徒たちには、夏休みをどんなふうにご過ごしたのかを聞いてみた。それぞれに充実した日々を過ごしたようだが、思うように進まなかった、あちこちに出かけすぎて疲れてしまった、演奏会やコンクールの練習で忙しかった、等述べていた。今年の夏は、天候に恵まれず、ここへ来てようやく良い天気が続くようになった。夏休みの思い出も今年は寂しい、といった声が多かった。

さて、丹精をこめて作った「夏休みの課題」を提出してもらった。ずっしりとファイルごと提出してくれた生徒と、べらっと感想文1枚の生徒、楽典の課題のみ提出の生徒等多岐にわたった。2名を除いて14名が提出してくれた。

来週の試験を意識して

[教材]

- ・初見読譜(過去問題) 数枚 ト音記号 ヘ音記号
- ・リズムの練習
- ・視唱課題(過去問題) 伴奏付きの練習も
- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』

次回試験に向けて、夏休みの課題を頑張った人は、それだけの成果が必ず出るので、自信を持って頑張ることを伝え、明るく元気に終えた。

以下、提出してもらった「夏休みの課題」を終えての生徒たちの感想文である。

[3年生]

- ・普段の授業では、わからないところを教えてもらってすぐに解決するが、一人でやっているとなかなか理解するのに時間がかかり、正しくできているのかもわからないので、実は、いつも助けてもらっていることを実感した。
- ・夏休み中、音符に慣れるように毎日やろうと思ったが出来ず、大学に入ってもソルフェージュはあるので、コツコツ頑張りたい。
- ・残り少ない高校生活を充実させるためにがんばりたい。
- ・夏休みは、専門実技の練習に明け暮れ、ソルフェージュはあまり出来なかった。

[2年生]

- ・たくさんの宿題を作って下さり、ありがとうございました。復習も全部できました。
- ・夏休みの課題では、「リズム付き視唱」の教材で、リズムと視唱の両方ができたので、良かった。
- ・楽典の復習もできた。
- ・前期の授業と夏休みの課題を通して、ソルフェージュをきちんと勉強したところ、自分の苦手な箇所が見えてきた。それは、リズムと音程だ。リズムの初見課題などでは、頭がごちゃごちゃになってしまう。日々努力して、コツコツと積み重ねていきたい。

[1年生]

- ・まだまだ読譜と視唱が成長しない。
- ・苦手なヘ音記号が少し読めるようになってきた。

- ・リズム課題では、付点が出てくると曖昧になり、両手で連符が出てくると曖昧になるところが課題だ。
- ・視唱では、うっかり調号を忘れてしまい、最初からやり直し、ということが多かった。後期は#bのついた課題にも慣れていこうと思う。
- ・楽典の基礎が学べて良かった。
- ・課題があまり進まなかった。理由は、まだまだ五線譜に慣れていないため、一つ一つにとっても時間がかかってしまうからだ。リズムも時間をかければできるが、すぐにできない。授業では、先輩たちに付いていくので、スピードが出るのだが。
- ・課題は一応全部こなしたが、テストでできるかどうかは、分からない。

これらから、1年生は、細かくできるところとできないところを認識し、前向きに課題に挑戦していることがうかがえた。また1名は尺八だが、他の6名は箏曲専攻なので、邦楽の中での洋楽知識の必要性を十分に感じていることも要因の一つだろう。2年生は囃子専攻2名、箏曲専攻2名、長唄三味線専攻・尺八専攻各1名と多岐にわたっているため、一番レベル差があり、なかなか難しい。一人ひとりの意識もかなり違っているため、少人数に分けて、より細かく指導していくことも考えていきたい。3年生は、大学受験に向けて「楽典」が入試課題なので、そこを重点的に考えているようで、もう一步、ソルフェージュに対しての情熱が薄いようだ。3年生ということを考えてと確かに、受験に直結する課題優先となるのは当然かもしれない。よって、ソルフェージュも2年生までにもう少し基本を身につけて、よりステップアップしたい、という気持ちを持ち続けられるようにしたいものだ。

それぞれの感想文を読みながら、学年によって感じ方が大きく違うことに改めて気づくと共に、大勢で学習することの利点と欠点を見極めながら、やはり後期もいろいろな形式で練習していくことが必要だと感じた。提出してくれた感想文には、それぞれ私なりのアドバイスを書き、返却した。私自身が試行錯誤の日々なので、感想をこのように細かく書いてくれることは、とてもありがたいことだ。今後活かしていきたい。

<平成29年度 第12回 平成29年9月15日(金)>

全学年前期試験

試験は、邦楽専攻生用の課題を準備し、実施した。日頃のレッスンの成果は出てくるだろうか。楽しみでもあり、不安でもある。私自身、緊張の時間だ。1名ずつ入室し、予見1分で、続けて3課題を行った。全員出席のもと、無事に終わった。

[講評]

- ・想定通り、読譜・リズム・視唱いずれも完璧な生徒が2名いた。ただ、曲想は完全についているとは言えなかったため、そこは今後の課題である。洋楽クラスとはかなりレベルの差があることは、本人も自覚しているものの、後期試験は、洋楽の課題にチャレンジしてほしいものだ。
- ・Aグループでは、視唱は完璧だったが、読譜では、へ音記号を1音ずれて歌っていたり、リズム読み時間に時間がかかり、テンポを倍に数えたりしてしまったケースもあった。
- ・絶対音感もあり、ピアノも弾けるので、かなり期待していた生徒が、極度に緊張してしまい、読譜はへ音記号のみならずト音記号まで読み間違えた。リズムはとり方を間違え、視唱は、第3小節辺りからゆっくりになり、最後は音程自体がずれてしまった。やはり初めてのソルフェージュの試験となると勝手が違うのだろう。普段の学習態度があまり良好ではない生徒は、そこで差が出てしまうことも多い。後期はそこを意識して指導したい。
- ・Bグループは、読譜はト音記号・へ音記号ともにおおよそは読めているが、音が跳ぶと間違えた。つまり、ト音記号も完璧でないということだ。へ音記号がようやく読めるようになった生徒もなかなかスピードが上がらない。もっと練習しなくてはならない。リズムは、テンポを変えなくてよい、としたので、前半は、ほぼできる生徒が多かった。視唱は、和音をつけるとほぼ歌えた生徒が数名いたが、あとは前半のみな

んとか歌うことができる程度で、後半その音を出しても歌えない生徒もいた。このグループは頑張らないといけない。

- ・1年生は、読譜に関しては、ト音記号とヘ音記号共に跳んでしまうとミスしたり、スピードが落ちたりしてはいたが、おおよそ読めていた。リズムはリステッソ・テンポのところでは、全員止まってしまったが、止まったあと、取りなおしてほぼできていた。視唱は、数名が伴奏なしでほぼ正確に歌い、残りの生徒も前半は何とか歌うことができた。さらに基本を大切に練習していこう。
- ・Cグループは、読譜・リズム・視唱ともに、止まってはアドバイスしつつであったが、ト音記号は何とか読めるようになり、入学当初の仮名振り状態よりははるかに進歩がみられた。
- ・それぞれに確実に成長していることを実感したと同時に、欠席が多かったり復習を怠ったりしている生徒はいざとなると力を発揮できないものだ、と思った。後期もコツコツと宿題を出したり、小テストをしたりしながら、緊張感と楽しさを持って頑張りたい。

<平成29年度 第13回 平成29年10月6日(金)>

前期試験から3週間が経ち、いよいよ後期の始まりである。まず、前期試験を受けての感想と、後期にむけての抱負を語ってもらい、試験問題の復習をした。丁寧に復習してみると、ほぼ全員が、「それほど難しくない」と言う。予見があるとはいえ、初見で臨むことは、それだけで大変なことなのだ。夏休みの反省にあったように、「一人になると自分のペースになる」と言う。練習、練習、練習あるのみである。

[教材]

- ・前期試験問題 (すぐに回収)
- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』イ短調
- ・聴音 (なじみのある旋律を記憶)
- ・リズム
- ・歌 《小さな空》 (武満徹『ソングス』より)

[形式]

- ・全員で一斉に

[感想と反省]

- ・じっくりと試験問題を見て、どこがどう出来なかったか、確認した。完璧だった生徒には、洋楽クラスの試験問題を見せて練習させた。(すぐに回収)
- ・精神的に焦ってできなかった部分と、全く誤解していた部分、全然理解できていなかった部分を一人ひとりに聞いて回り、「ここが課題です」とアドバイスした。
- ・聴音では、《かっこう》《夜汽車》等なじみの曲(といっても知らない生徒が多かったが)を少し編曲して(例えばリズムを変えるなど)旋律を覚えて書く練習をしたのだが、音は取れなくてもハミングで歌うなどすると、皆、結構良く歌えた。いつも感じているのだが、そこを五線譜につなげていくことが必要だ。
- ・試験結果はさておき、全員確実に伸びているので、是非自信を持ってこれからも頑張ってもらいたい、と伝えた。
- ・《小さな空》は、皆がとても気に入ってくれたようで、何人かが、ピアノ伴奏を名乗り出てくれた。初見では難しかったが、「練習してくる」と意気込んでおり、指揮も順番にしよう、ということになった。試験を終えた安心感もあるだろうか、少しずつソルフェージュに対してのモチベーションが上がっていることは喜ばしいことだ。

<平成29年度 第14回 平成29年10月13日(金)>

急に寒くなった。今年は秋がなく、一気に冬が来た感じである。この日は、前半、机を一般授業のように一人ずつ並べて「自習」を試みた。課題を個々に独学してもらい、私が見て回った。時々、「ここをやって」と指示しながら1対1の学習形式で行った。そして、後半は全員で(席はそのままで)声に出したり、リズムを叩いたり

して自習の成果を感じてもらうことをねらいとした。

[教材]

- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』へ音記号
- ・リズム 変拍子に変わっていくリズム
- ・聴音 和音を聴いて一番高い音・一番低い音をとる
- ・視唱 無調を読む
- ・歌 《小さな空》

[感想と反省]

- ・これまで机を一人ずつにしての自習はやっていなかったのですが、試してみた。しかし効果は薄く、自習は、こうした形でなくてもできるので、今回限りとしよう。
- ・読譜では、へ音記号を集中的に練習した。まずは読みのみで、その後音程をつけて行った。1年生もだいぶテンポよく声をだしている。
- ・リズムは、変化していくリズムに次第に慣れていこうと思い、後期は時折、簡単なものから入れていき、3月には、リステッソ・テンポに対応できるようにすることが目標である。
- ・聴音は、昨年度は、全くやらなかったのだが、今年度は毎回少しずつやってきたせいだろうか、重音も聴き取れる生徒が出てきた。パッと答えられる生徒に「どういう風に聴いていますか」と質問し、「高い音の響きに注目する」や「低い音は聴きとりやすい」などと意見を述べてもらい、漫然と聴くのではなく、「考えて聴く」意識を持つよう伝えた。何となく、生徒の目の色が変わったような気がした。
- ・相変わらず、音程の高低差があるものは、難しい。さらに無調となるとなかなかなじめないようだが、前音から何度かを考えて時間がかかっても読んでいく練習をしたい。楽しくはないが、こうした練習も必要である。
- ・前半、どんよりとした空気が広がり、後半もかなり難度の高い課題であったのだが、最後は大好きになった《小さな空》を気持ち良く歌った。2名が右手と左手に分かれて伴奏してくれた。2年生1名に指揮をしてもらった。時々前に出て順番に行っているが、表現力を豊かにする意味でもタクトを振る練習は面白いと思う。どんどん取り入れていこう。

<平成29年度 第16回 平成29年10月27日 (金)>

この日の目標は、前回に続き、へ音記号の読譜（ト音記号と混ぜて）と聴音、6度7度の音程とした。前回配布したリズム課題を宿題にしたので、まずその課題から始めた。音程もそうだが、リズムは細かい部分をどうしてもきっちりと解決せずに進めてしまうので、今回は、同じ課題をゆっくりとしたテンポから始めてだんだん上げていくようにきちんと仕上げている。

[教材]

- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』（へ音記号・ト音記号混ぜて）
- ・聴音 (リズムの聴音・ト長調 8小節)
- ・『コールユーブンゲン』 6度・7度音程
- ・歌 《小さな空》

[感想と反省]

- ・へ音記号に随分慣れてきたようであるが、ト音記号と混ぜてしまうと切り替えがうまくいかない生徒がまだ多い。Aグループには、予見の自己練習の時間には、アルト記号の譜読みをできるようにしている。
- ・リズム聴音は初めて挑戦し、「手を叩く」「ピアノのラを弾く」「机を叩く」などしてみた。こちらの叩き方一つで休符なのか2分音符で伸ばすのか、などの質問があったことに成長を感じ、嬉しく思った。また、二人ずつ組になって、4小節から8小節程度の簡単なリズムを聴きとりあい、書いてみる、という練習もした。

邦楽専攻生クラス・ソルフェージュ授業奮闘記

- ・『コールユーブンゲン』での音程練習は、前期にも取り入れていたが、取りにくい6度・7度を集中的に練習した。全体的には大きな声が出るようになってきたが、決まった生徒がリードしてくれるので、何となくついて行っている生徒はまだ多いことを良く認識しながら、時折、「〇〇さん、一人で」と声かけをしているが、一人になると難しい。練習、練習である。
- ・『コールユーブンゲン』6度音程を宿題にした。次回一人ずつテストを行う。

<平成29年度 第17回 平成29年度 11月10日 (金)>

これまでも授業時には、時折質問をしたり意見を言い合ったりしているが、この日は、先週の「藝高定期演奏会」に対する私の感想を簡単に述べ、一人ずつ反省や感想を発表してもらった。皆がかなり興奮して、自分の考えを述べた。次のようなことである。

[3年生]

- ・高校生活最後の演奏会だったので、毎日朝練習をやり、下級生に付き合ってもらったが、たくさん練習したので、安心して弾けた。
- ・本番は練習よりうまくできなかったが、それなりにやりきった。

[2年生]

- ・去年は、初めてで緊張してしまい、よく覚えていないくらいだが、今年は、精神的に余裕があった。
- ・本番は失敗した。
- ・お客さんが多くて驚いた。
- ・来年あと1回しかないと思うと楽しみだ。

[1年生]

- ・先輩についていっただけで精一杯だった。終わった途端に涙が出た。
- ・とにかく大変だった。
- ・心が一つになった。

等、全員がいつになくはっきりと意見を言ったので、定期演奏会に向けての気持ちはそれぞれに高かったのだな、と改めて思った。その後、誰ともなく、藝高における「邦楽」に対しての不満をいろいろと述べはじめ、それも良い機会かと思い、聞いていた。今年度は、特に邦楽専攻生がこれまでに多くないので、その気持ちも分かる。機会があれば、提言できることは私自身もしていきたいと思っている。学年を問わず邦楽専攻生で集まる時間はソルフェージュのみであろうから、このような時間も大切にしたい。その後、1人ずつ(1年のみ2名ずつ)、前回の宿題(『コールユーブンゲン』No.36、6度音程)をテストした。それから、和音・伴奏付き聴音、『ダンノーゼル』の続き、《小さな空》を歌って終わった。

<平成29年 第18回 平成29年11月17日 (金)>

今回は、3年生の試験であり、3年生のソルフェージュの授業が残り少ないことを確認した。3年生は3名であるが、さすがに経験を積んできただけのことがあり、よく1、2年生をリードしてくれていたので、とても寂しい。次週のテストでは、力を十分に発揮してほしいものだ。

[教材]

- ・和音を含む聴音
- ・リズム譜にメロディーをつける (『即興演奏の基礎』より)
- ・『コールユーブンゲン』 7度(転回音程ふくむ)
- ・歌 《夢をあきらめないで》

[感想と反省]

- ・今回初めて、「作曲」に挑んだ。ハ長調4分の4拍子、8小節から始めた。音を思い浮かべて、曲想にも注意して、と臨んだ。正直に言うと、あまり期待をしていなかったのだが、全員とても喜んで取り組んだ。提出してもらい、次週にコメント付きで返却したが、レベルの差こそあれ、ほぼ全員が半分の課題をこなしていたことにとても驚いた。音符を書くことにも次第に慣れてきていたこともとても嬉しく思った。
- ・聴音では、このところ和音を弾いて「一番高い音・一番低い音」を答えてもらっているが、これまでさほど意欲的ではなかった生徒が、一番早くとらえることができています。音はわかっているのに、それが音符に結びつかない、と改めて感じた。
- ・視唱では、3年生がいつも明快に大きな声で歌ってくれるので、3年生がいなくなると声のリーダーがなくなり、困ったことになる。もう少し2年生に頑張ってもらわなくてはならない。
- ・歌は、今回の曲は、伴奏がやさしいので、初見で2年生に弾いてもらった。指揮もまた別の生徒にお願いした。なかなかのものである。全体的に力がついてきたことが窺え、嬉しく思う。

<平成29年 第19回 平成29年11月24日(金)>

3年生が試験のため、初めて1、2年生のみとなり、欠席もあったので、なんだかとても寂しい気がした。当初16名という人数に教材準備などで来てこまだったように思うが、慣れるということとは思えないことである。3年生との授業はあと2回を残すだけなので、次回から、3年生を囲んで座ろう、ということになった。いつの間にか、とてもチームワークがよくなり、「藝高邦楽科」のようだ。

[教材]

- ・『ダンノーゼルのソルフェージュ』へ音記号の続き
- ・リズム 2拍子から8拍子までの初見練習
- ・聴音 8分の3、8分の6拍子 調号を言わずに聴く(ト長調、ヘ長調、ニ長調)
- ・前回学習した「リズム譜にメロディーをつける課題」を返却し、指示された部分をピアノで弾く(自作品)
- ・歌《小さな空》《夢をあきらめないで》

[感想と反省]

- ・聴音は、これまで「○長調(短調) ○分の○拍子 ○小節」と言ってから行ってきたが、今回は、ハ長調の視唱をやってから、調号は言わずに聴きとってもらった。「ト長調(♯1個)」と「ヘ長調(♭1個)」まではよくできていたが、ニ長調になると聞き間違える、あるいはお手上げ、という生徒もいる。音の高低をよく聴いてイメージしてもらうためには、良い練習となった。教える際にも移動ドか固定ドか、悩むところである。両方で歌ってみるが、どちらに聴こえるか、ということが分からない生徒も多い。
- ・8分音符を1拍とする読み方は、随分慣れてきたが、まだ自分で書くとなると慣れておらず、特に♪を連ねて書くことができないケースが多かったので、これからも練習しよう。
- ・ピアノを弾くことができる生徒は多くいるが、曲の伴奏などで決まった生徒ばかりになってしまい、なかなか普段は、鍵盤をさわる機会がない。今回は、一人ひとりの実力を知る意味でも、返却した自分の作品を弾いてもらう、という課題を与えてみた。音符は書けるようになってきたが、鍵盤の前では、ハ長調でもすぐには弾けない生徒も数名いて、やはり、音と結びつくまではもう少し時間がかかりそうだ。1年生が、ト長調とニ長調も弾けていたことには少々驚いた。クラスの友人にピアノを教えてもらっているそうである。
- ・今日も歌を元気に歌って終えた。3年生が充実した気持ちで終わられるようにしたいものだ。

5. 終わりに

担当して2年目とはいえ、毎回毎回の授業をこなしていくことに精一杯で、一貫性を欠き、恥ずかしいばかりであるが、自分の経験として、とても勉強になっている。16名分の教材を用意するだけで最初は大変であった。昨年度は、1冊教科書を全員に購入してもらい、それを中心に行ったが、今年度は、人数とレベル差を考慮し

て同じ教材の中で変化をつけていくことにした。また、出来ない方に合わせるか、出来る方に合わせるか、ということとはとても難しい問題だ。しかし、そこは実践しながら対応してきたつもりである。また、今後もその都度、状況に応じて運用していきたいと思っている。

「楽譜・五線譜に慣れる」ために、いろいろな譜面を目に入れて読んでいく、歌っていく、聴いていく、書いていくということを常に忘れずに指導してきた。また、宿題やテストを通して、復習・予習を促すことの必要性も大いに感じた。そして、提出物を通して、一人ひとりとコミュニケーションをとることも、今年度実践できたことだ。今後も続けていきたい。

まだまだやり足りないことばかりであるが、「邦楽専攻生のソルフェージュ」が専門実技に活かされ、藝高ソルフェージュ全体のレベルアップにつながるように心して指導していきたい。